

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270400920		
法人名	株式会社メディウエル		
事業所名	グループホームみつわ台桜レジデンス		
所在地	千葉県若葉区みつわ台1-1-4		
自己評価作成日	令和5年3月19日	評価結果市町村受理日	令和5年7月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA
所在地	千葉県我孫子市本町3-4-17
訪問調査日	令和5年3月27日 書面審査

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>医療面には、特に力を入れています。ご利用者の日々の変化に気を配り、医師と看護師との綿密な連携を図っています。食事は管理栄養士が立てた献立を基にバランスの良い家庭料理を提供しています。食事の準備や洗濯物干し・たたみ・お掃除などの簡単な家事をはじめ、個々に応じた力を発揮出来るよう趣味を活かした活動を通して、張りのある生活が送れるよう援助させて頂いております。自立支援の視点から、ご利用者の出来る事、できないことを把握し、その方が必要とされていることを感じて頂き安楽で幸せな生活が送れるように努力しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームは2004年の開設で、まもなく20周年を迎える。入居者は比較のお元気な方から重度な方まで幅広いが、家族アンケートでは明るい雰囲気・親切的な職員の対応などと好評である。設立以来ホームの基盤作りに尽力された前ホーム長から一昨年にバトンタッチを受け就任したホーム長は、ホーム運営の充実に熱意を持って取り組んでいる。家族の面会も制限せざるをえない状況が続いているが、ZOOMでの面会を取り入れたり、季節ごとの行事に工夫凝らす等して入居者に楽しく過ごしていただくことを目指してきた。家族からは本人の様子をもっと知りたい、早く面会したいとの希望が多いが、今春は3年ぶりに地域のさくら祭りに参加する等、地域や家族との交流も徐々に再開を予定している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない(コロナの為)
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない(コロナの為)	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をフロアに掲示し、内容を理解した上で、意識化し、認知症ケアを共有・実践していける様日々の支援に取り組んでいる。	母体が医療法人であり「入居者の尊厳を重視し、家族を含め楽しい生活ができるように支援する。科学的かつ適正な地域密着型の医療・介護に努める。」等の理念を掲げ、医療と連携してホーム運営に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は、コロナ禍で参加出来ないが地域の行事に参加したり、自治会の清掃に利用者や職員が参加し、近隣の方々に、積極的に挨拶言葉掛けをしている。	小学校や保育園との交流、自治会行事などは中止しているが、公園の清掃や地域のさくら祭りに3年ぶりに参加する等、地域との交流を再開し始めた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今はコロナ禍で自治会活動も中止が多くなっているが、ホームの前の歩道の落ち葉掃きなどしていると、近くの方など声を掛けて下さり会話されたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は書面開催となっているが、利用者様ご家族に電話をしたり、ホームの月報にお手紙を同封したりして、意見や改善点を聞いている。	運営推進会議は年4回、ホーム関係者での書面開催とし、議事録は地域包括支援センター、民生委員、家族代表等に送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現在運営推進会議は書面開催の為電話等で事業者の実情やサービスの取り組みを伝えていく。生活保護利用者7名在籍されており、区の担当者、後見人とは連絡を密にしている。	運営推進会議に地域包括職員の参加を得ていたが、現在は書面開催の為に電話等で連絡し合っている。生活保護利用者対応としては区の担当者及び後見人と連絡を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行い、またホームでもミーティングをし、身体拘束となる具体的な行為や弊害について理解している。基本的な生活を守るケアに努め利用者の状況を適切に把握しケアの工夫を行い身体拘束ゼロに取り組んでいる。	身体的拘束適正化委員会は、運営推進会議開催時に開催している。年間研修計画に基づき内部研修を実施、外部研修参加で周知している。過去、車椅子利用者で転倒防止の為に固定ベルト使用した方がいたが、家族の了解を得て手順に基づき一時的に拘束した例があるが、8月に退所されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待をしないケアの理解を深め、虐待が見過ごされる事が無い様、報告書等を利用して、毎朝の申し送り時に虐待について発表し虐待防止に努めている。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中には後見人制度を利用されている方がいらっしゃいます。研修の機会を持ち、日常生活自立支援事業、成年後見人制度について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、重度化、改定等に際しては、利用者ご家族の権利や義務を分かりやすく説明し、質問に応じ、十分に理解・納得して頂ける様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会及び、電話連絡時に報告に加え意見や要望を尋ね運営に反映させている。利用者には、日々の会話の中で意見や要望を聞き、運営や支援に反映させている。	家族の緊急時以外の訪問・面会は中止しており、電話等での報告、家族からの要望を受けて運営に反映させている。ホームでの様子は毎月「桜だより」を写真入りで作成し、家族に送付している。	アンケートでは「本人の状況がわからない」といった回答が多くなっている。Withコロナ禍中でのコミュニケーションの取り方につき、一段の工夫を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム内は日常的に発言しやすい環境にあり主に申し送り時間を利用して、意見や提案を出し合い、運営に反映させている。	オープンな運営で発言しやすい職場環境であり、日常支援の中で意見を出し合い、実際の介護に取り入れている。	日々の申し送りは大切であるが、最低月に1度は短時間でも職員会議を開催されることを期待したい。課題を整理し職員間の共有に繋がることかと思う。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績や資格取得により昇給の仕組みがある。希望に沿った勤務が出来る様、配慮されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内年間研修計画は各自が研修したい内容を出し合い決めている。施設外研修は、その職員が必要とする研修を受けられる様また、平等に研修に参加出来る様配慮し職員の知識、技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉市グループホーム連絡会に所属しており、勉強会、研修会などで意見交換をしている。定期的開催される区サービス事業者研修に参加を促している。		

Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談、見学時にご本人の不安、要望等を傾聴し、誠実に丁寧に対応説明し信頼して頂ける様努めている。利用前であっても、いつでも相談に応じられることを伝えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談や見学時に困っている事や不安な事を伺い、思いを受け止め丁寧に説明している。利用前でも相談に応じられる事、空床があれば体験入居が出来る事も伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談受付時、生活面や健康面、経済面等の状況を把握し本人に適したサービス利用が出来る様に地域包括支援センターとも連絡を取り対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に食事の準備や洗濯物干し、たみをしたたり、利用者の得意な事を活かしながら共に暮らしに寄り添う関係を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月手紙にて近況報告をし、心身の健康状態や生活の様子を把握してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で思う様に面会が出来ず買い物や地域交流の場にご家族の協力が得られない状況にあるが、規制緩和の状況を見ながら、面会や交流を再開している。	夏にホーム内での感染もあり、面会は大幅に制限せざるを得ず、電話やZOOM利用でのコミュニケーションとなっている。馴染みの関係継続が難しい状況が続いているが、市のガイドラインに沿って徐々に交流を再開しようとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの性格等を把握し、気の合う同志が交流を楽しめる様また、トラブルが無い様工夫している。		

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何時でも相談や支援が出来る状況をご家族に伝えるなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望を伺ったり日頃の会話でそれらを引きだせる様に心掛けている。困難な場合言動などで読み取り職員間で検討している。	入居に際し、本人や家族・前担当者等から情報収集し概要把握に努めている。入居後は日常のコミュニケーションの中から、思いや意向を汲み取り職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活習慣など十分にアセスメントを行いご家族から本人やご家族とのコミュニケーションを取る中で情報収集し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況を記録し、申し送る事で変化などを職員間で情報を共有し、現状把握に努めている。毎日のバイタル、食事量、排尿チェックなどで健康状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングや日々の申し送りで話し合い、介護計画の評価見直しを行っている。職員間で話し合いご家族にはその都度意見を求め介護計画を作成している。	毎月ケアカンファレンスを行い、実践状況経過・日々の記録・家族の意向等を基に職員間で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。状況変化時は必要の都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ったケアの実践状況経過、日々の様子から気付いた事は記録、情報共有し実践に活かしている。介護計画にも記録し評価見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍でスムーズな対応が中々出来ないが、その時の状況に応じ買い物や衣類等の補充、通院、緊急時の支援が出来る様に柔軟な対応を務めている。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で運営推進会議が書面開催でしか行えず地域に見守られ安全で豊かな生活を楽しめる様な支援が出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には経過や生活の様子等の情報を提供し、医師からは観察事項や生活上の注意事項の指示を受け利用者が適切な医療が受けられ、健康管理で異常の早期発見が出来る様、看護師に報告し医師との連携に努めている。	入居に際しホームの担当医に変更をお願いしている。医師(法人代表)の月2回往診・訪問歯科随時の受け入れ、および看護師が職員として在籍しており健康管理の面で日常的に安心を得ている。アンケートでも医療面の高い評価がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と医療連携体制を取り日常の様子、変化等を報告しながら気に掛かる事は随時相談し必要時に迅速、適切な対応が出来る様24時間相談体制が取られている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の対応、医師からの説明を一緒に聞いたり支援方法などの情報提供をしている。コロナ禍で入院中の見舞いは出来ないがソーシャルワーカーとの連携を計り早期退院と帰所後の適切なケアに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時のアセスメントの際にはターミナルの意向確認を行っている。ホームで出来る事出来ない事についても十分に、説明し納得頂ける様努めている。	入居時に事業所指針を説明している。重度化した場合、意向の再確認を行っている。医療的行為が不必要の場合は、医師の指示及び家族の協力のもと、看護師・職員がチームケアで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	業務ミーティングでの勉強会を重ねている。緊急時マニュアル、事故防止及び、対策マニュアルを作成し、熟知徹底すると共に研修しいつでも対応出来る様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時の対応マニュアル、救急搬送手順、連絡方法を整備、市主催の救命救急を積極的に受講、災害時に迅速適切な行動が取れる様、利用者と共に防災避難訓練を実施している。	火災想定自主避難訓練2回及び地震・水害等避難訓練を実施、救急搬送手順・連絡方法等を確認し、災害時の避難方法の習得に努めている。3日分の備蓄の用意及び近隣との協力体制を築いている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の権利、人権を常に意識して適切な言葉遣いと対応に努めている。	ホームの基本理念である「入居者の尊厳を重視・・・」のもと、誇りやプライバシーを損ねない言葉遣いや言葉掛け・対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者が思いを表現出来る自己決定が出来る環境作りや言葉掛けを行っている。表現が困難な方には言動や行動からニーズを読み取り代弁するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	一人一人の趣味や生活のペースを把握理解して、楽しみを持ち居心地良く生活出来る様に支援している。活動や行事への参加は個人の意思を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	こだわりや好み、これまでの習慣を尊重しながら清潔を心がけ、季節や場所に応じた衣類等のアドバイスをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好に合った料理や季節感のある食事が提供出来るように努めている。一人一人の力に応じた役割を持ち共に食事の準備や片付けをし食事を楽しんでいる。	行事食や誕生日祝膳・おやつ作り等、楽しみながら美味しく食べる食事の提供に努めている。出来る方は準備や片付け等、役割意識を持って参加している。状態に応じきざみ食・ミキサー食の対応をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が立てたバランスの良い献立を基に個々の状態に応じて形態や量を変え楽しく安全に食事が出来る様に支援している。食事や水分摂取量をその都度把握して健康管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状態に応じた援助で起床と毎食事後の計4回の口腔ケアを行っている。ご自分で出来ない方には援助にて肺炎予防に努めている。訪問歯科の来訪もある。		

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し排泄の失敗が無い様に声掛けや誘導を行いプライバシーを損ね無い様に気をつけている。	排泄チェック表から個々の排泄パターンを把握し、声掛け・誘導を行いトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックで状況を把握し看護師、医師と連携を取り個々に合った排便コントロールを行っている。繊維質が多い食材をおやつにしたり水分を十分に取る事を心がけ便秘の予防につなげている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は1～2日おきに行っており湯の温度や入浴にかかる時間を一人一人の好みに合わせ、その日に入浴をするしないや順番等の希望に添える様にしている。	1～2日おきの入浴支援をしている。個々の好みの湯温や入浴時間・順番等、本人の希望を尊重したりリラックス出来る入浴支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその時の状況に応じ居室やソファ等できつろいで休息を取れる環境を作っている。日中に活動の場を多く提供し夜間安眠の生活リズムが整うよう支援している。室温や湿度も季節に応じて調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や看護師と対応し服薬管理は特段の注意を払っており、利用者別の薬ケースで管理し、用法、用量を記載し誤薬防止のため、顔写真を貼り管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の力に応じた役割を家事や活動の場で持って頂き趣味を続ける事で楽しみを持てる支援をしている。散歩や買い物での気分転換はコロナ禍にて中止していたが、可能な範囲で再開をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	社会の変化の様子を見ながら外出支援を行っている予定。	コロナ禍中で遠出の機会は減っているが、父の日には千葉公園、初詣には千葉神社に出かけ、4月には3年ぶりに地域のさくら祭りへの参加も再開する。日常的には外気浴と気分転換を兼ねて、ホーム周辺で散歩をしている。	

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>小遣いは基本的にホームの管理となっているが、細かな買い物は利用者の力に応じ支払えるよう援助している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望に沿い日常的な会話を電話でしたり、賀状を書く援助をしたり、援助する事で利用者の交流関係が継続出来る様支援している。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者は常に職員を確認でき、安心できる間取りになっている。季節感のある装飾や花で生活の彩りを備えながら温かな家庭的な雰囲気の中で過ごして頂ける様努めている。</p>	<p>ホーム内の窓を開けによる換気や消毒の徹底等により、清潔で気持ちの良い共用空間の維持に努めている。居間等の壁面には利用者の作品等が飾られている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>利用者の落ち着く場所でテレビを観たり、編み物、ぬり絵、本を読む事など又、気の合う同志で談笑しくつろいで過ごされている。状況に応じ座る場所へ誘導し孤立しない様に気配りしている。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時利用者、ご家族と相談し、馴染みや思い入れのある家具や物を置き、その人らしく安心して落ち着いて過ごせる居室作りをしている。入居後も相談しながら、その時の生活に応じた居室になるよう工夫している。</p>	<p>馴染みの家具や物等を置き、安心して過ごせる居室作りをしている。出来る方は職員と一緒に掃除をする方もある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人一人の力を把握し補助具の使用や理解しやすい様に張り紙を利用するなど環境整備にも気を付けながら出来る限り自立した生活が安全に送れる様に工夫している。</p>		